

1. 平成 28 年研修施設 (認定施設・登録施設) 年報と更新申請について

【施設年報】

日本病理学会病理専門医制度研修認定施設および登録施設には平成 28 年 (1 月～12 月) の病理学的業務の実績報告書 (施設年報) のご提出をお願いしております。研修施設の維持には、毎年の提出が必須です。

今回より施設年報は、用紙での提出方法から、NCD を通じたデータでの提出方法に変更となりましたので、ご注意くださいようお願い申し上げます。施設ごとに NCD の病理剖検登録ページにログインを行い、登録を行ってください。

ご報告いただきましたこの年報の概要は、病理学会ホームページへの掲載ならびに、平成 28 年の日本病理剖検報に集録されることになります。

施設年報提出期間:

2017 年 2 月 1 日 (水)～3 月 1 日 (水) 23:59 まで

【更新申請について】

更新書類提出締切: 2017 年 3 月 1 日 (水) 消印有効

詳細はホームページからご確認をお願い致します。

認定施設

<http://pathology.or.jp/news/whats/28-nintei.html>

登録施設

<http://pathology.or.jp/news/28-touroku.html>

施設年報の登録に関する注意事項を記載しておりますので、ご確認ください。

<http://pathology.or.jp/news/whats/28-nenpou.html>

2. 平成 28 年度第 3 回理事会開催報告

平成 28 年 11 月 9 日 (水) 16:00～18:30 金沢市文化ホール展示棟 3F 第 5 / 6 会議室にて標記理事会が開催されました。理事長報告、各種委員会報告、各支部活動報告、各総会開催準備報告の他、13 項目の協議を行いすべて原案通り承認となりました。そのうち、総会承認事項は、会報 348 号ですすでお知らせいたしましたので、その他の決定事項について抜粋の上ご報告いたします。

※参照 HP:

http://pathology.or.jp/side/pdf/KAIHO348_0120.pdf

1) 第 107 回 (平成 30 年度) 総会宿題報告担当者として、10 月 14 日開催の学術委員会にて選出された 3 名を承認した。

① 吉野 正 (岡山大学)

「濾胞性リンパ腫の分子病理と“十二指腸型”疾患単位の確立」

② 内木 宏延 (福井大学)

「ヒトアミロイドーシス発症の分子機構」

③ 北川 昌伸 (東京医科歯科大学)

「骨髄性腫瘍の病態の捉え方—新しいアプローチを考える」

2) 第 63 回 (平成 29 年度) 病理診断特別講演担当者として、10 月 14 日開催の学術委員会にて選出された 2 名を承認した。

① 田中 祐吉 (神奈川県立こども医療センター)

「小児腫瘍の病理診断: 胎児性腫瘍を中心に」

② 平戸 純子 (群馬大学)

「脳腫瘍の病理診断—新 WHO 分類における病理診断—」

3) 広報委員会内規及びホームページ運用規則改定について承認した。関係諸規定の主な改革点は以下の 2 点である。

① 広報委員会内規に本委員会の担当事項として「ホームページの管理・運用に関すること」を追加した。

② 日本病理学会ホームページ運用規則に「情報発信」という文言を追加した。

4) 会員管理システム導入の件について承認した。

① 開発会社について 3 社からヒアリングを行い、技術者や医療情報セキュリティレベルの高い日本ユニシス株式会社に依頼することとした。

② 初期費用が約 1,200 万程度、月額運用費は 18 万 3,600 円 (税込) の予定である。

③ 平成 29 年秋に行われる役員選挙は、このシステムを用いて行う予定である。

5) 「デジタル病理画像を用いた病理診断のための手引き (初版)」策定の件につき、原案が提示され、承認した。学会終了後、ホームページにて公表する。

6) 「国民のためのよりよい病理診断に向けた行動指針 2017」策定準備の件について、議長より以下説明があり、これを承認した。

① これまで 2013、2015 年版と策定し診療報酬改定

の前年度に発表を行っている。

- ② 2017年版では保健医療機関間連携による病理診断のための診断情報提供料の詳細を1番の項目に掲げ、全ての病理診断を保健医療機関で行うようにしたい。
 - ③ 「病理解剖への財政的裏付けのための医療安全対策加算の見直し」について学会としての姿勢を示す。
 - ④ 「遠隔病理診断のデジタル化加算」の要望については、病理の場合、画像を扱う機器やメンテナンス費用、更新費用が診療報酬に見込まれていないが、今後ICTを活用した病理のデジタル画像による病理診断を普及させるために必要な費用と考える。
 - ⑤ 今回の総会で発表後、パブリックコメントを求めたいと考えている。
- 7) 日本肺癌学会・日本病理学会合同 ALK-IHC 精度管理WG「肺癌 ALK プラクティカルガイド」公開の件について、11月7日までの学会ホームページでのパブリックコメントでの意見を受け、修正後、ホームページで公開することを承認した。
 - 8) 平成28年度3月～10月期新入会員を承認した。

3. AMED：平成28年度「臨床研究等ICT基盤構築研究事業」について

平成28年11月15日、日本医療開発機構（AMED）から「医療のデジタル革命プロジェクト」に係る公募が発表されました。これは、「日本再興戦略2016—第4次産業革命に向けて—」（平成28年6月2日閣議決定）、「未来への投資を実現するプロジェクト」（平成28年8月2日閣議決定）を経て、実施されることになったもので、平成28年度「臨床研究等ICT基盤構築研究事業」として公募されました。日本病理学会では、その一つの課題「ICT技術や人工知能（AI）等による利活用を見据えた、診療画像等データベース基盤構築に関する研究」が、今後の病理学、病理診断学にとって重要であると考え、研究委員会を組織し、応募いたしました。幸い、平成29年1月16日採択の連絡が届きました。ここに概要をお知らせし、経緯へのご理解、今後の事業へのご協力をお願い申し上げます。

詳細はホームページよりご確認ください。

<http://pathology.or.jp/news/whats/news-170202.html>

4. 進行肺癌に対するPD-L1免疫染色についての留意事項について

2015年12月、そして2016年12月に、免疫チェックポイント阻害剤であるニボルマブ（商品名 オプジーボ）、ペムプロリズマブ（商品名 キイトルーダ）がそれぞれ切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌に承認（適応拡大）されました。特に、ペムプロリズマブの投与にあたっては、

承認されたコンパニオン体外診断薬（PD-L1 IHC 22C3 pharmDx「ダコ」）を用い、腫瘍細胞におけるPD-L1陽性を確認することが求められています。これまでの臨床試験の結果で、一次治療ではPD-L1陽性細胞 $\geq 50\%$ 、二次治療以降は $\geq 1\%$ の腫瘍に対して有効性が示されており、病理医は腫瘍細胞におけるPD-L1発現状態を報告することを求められるようになります。また、一次治療にも組み入れられるため、EGFR変異検査、ALK再構成検査と同じく、進行肺癌であれば、診断時に検査することが推奨されています（2016年版肺癌診療ガイドライン）。このPD-L1（22C3）免疫染色を施行するにあたっては以下の点に留意する必要があります。

1. ペムプロリズマブに対する効果予測はPD-L1 IHC 22C3 pharmDx「ダコ」で行うこと。
2. PD-L1（22C3）発現の報告には、少なくとも3つの基準を明記すること。

詳細はホームページよりご確認ください。

<http://pathology.or.jp/news/whats/PD-L1-170124.html>

お知らせ

1. 第69回保健文化賞について

本学会からの推薦を希望される場合は下記HPを確認の上、3月10日までに学会事務局宛ご連絡下さい。

参照HP：

<http://www.dai-ichi-life.co.jp/>

問い合わせ先：第一生命保険株式会社 DSR 推進室

TEL：050-3780-5776

2. 第14回（平成29年度）日本学術振興会賞について

本学会からの推薦を希望される場合は下記HPを確認の上、3月10日までに学会事務局宛ご連絡下さい。

参照HP：

<http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/>

問い合わせ先：独立行政法人日本学術振興会

人材育成事業部 研究者養成課

「日本学術振興会賞」担当

TEL：03-3263-0912

3. 第22回慶應医学賞について

本学会からの推薦を希望される場合は下記HPを確認の上、2月23日までに学会事務局宛ご連絡下さい。

参照HP：

<http://www.ms-fund.keio.ac.jp/prize/index-j.html>

問い合わせ先：慶應義塾医学振興基金事務室

TEL：03-5363-3609

4. 平成 29 年度第 58 回東レ科学技術賞および第 58 回東レ科学技術研究助成候補者推薦について

本学会からの推薦を希望される場合は下記 HP を確認の上、8 月 25 日までに学会事務局宛ご連絡下さい。

参照 HP:

<http://www.toray.co.jp/tsf/>

主催：公益財団法人東レ科学振興会

(推薦要領・推薦書の各学・協会への発送とホームページへの掲載は、6 月上旬を予定)

5. 科学技術コミュニケーション推進事業 未来共創イノベーション活動支援 平成 29 年度公募について

表記の件につきまして詳細は下記 HP をご確認ください。

参照 HP:

<http://www.jst.go.jp/csc/support/public/h29detail.html>

問い合わせ先：国立研究開発法人科学技術振興機構

科学コミュニケーションセンター

対話グループ

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3

サイエンスプラザ 8 階

TEL：03-5214-7493

Email：katsudo at jst.go.jp

6. ConBio2017 ワークショップ企画公募のお知らせ

日本病理学会協賛の 2017 年度生命科学系学会合同年次大会より下記案内がございました。

12 月 6 日（水）～9 日（土）の 4 日間、神戸ポートアイランドにて日本分子生物学会と日本生化学会を主催とし、貴学会を含む国内の 32 学会の協賛による「2017 年度生命科学系学会合同年次大会（ConBio2017）」が開催されます。協賛学会の会員の皆様におかれましては、日本分子生物学会、日本生化学会の会員と同じ条件で、ConBio2017 への参加、演題発表、公募企画の提案が可能になっております。学会の枠を超えた学术交流が、参加するすべての学会やその会員に新しい知的な刺激を生み出すことを期待しております。

会員の皆様の積極的な参加を心よりお待ちしております。詳しい最新の情報に関しましては、大会のホームページを定期的に確認して頂ければ幸いです。

大会名称：2017 年度生命科学系学会合同年次大会

英語名称：Consortium of Biological Sciences 2017

略 称：ConBio2017

会 期：2017 年 12 月 6 日（水）～9 日（土）※ 4 日間

会 場：神戸ポートアイランド

大会 HP：<http://www.aeplan.co.jp/conbio2017>